

授業作り	重 点	基礎・基本を徹底するとともに、個に応じた指導を行う。
環境作り		デジタルドリルの活用を行い、家庭学習の環境を整える。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・古典分野および漢字の学習に課題が残る。 ・「質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友達、地域の人と進んで交流しようとしている」という質問に対して肯定的な回答をしている割合が全国平均と比べて低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、漢字や語彙の習得に力を入れる。 ・語彙力を高める。 ・話し合いを通して、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを正確に理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①モジュールで、漢字学習を行う。 ②定期的に漢字テストを実施する。 ③国語辞典や類語辞典を活用する。 ④協働学習の機会を多く設定する。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に共通して中間層が比較的薄く、学力の二極化があると考えられる。 ・基礎計算や用語の定着に課題がある生徒や一人では課題が進められない生徒が複数在籍している。 	<p>【下位層の引き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の取り組みに課題があるため、デジタルドリルをこまめに活用する。また、定期的に小テストなどを取り入れ、自学自習を促す。 ・基本的な計算を強化する必要がある。 ・習熟度クラス分けを適切に実施する。 <p>【思考・判断・表現の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに、自分の考えを表現する活動を増やす。また、複数単元の知識を活用する学習を増やす。 ・図や式をみて考えを説明したり、考え方を読み取ったりする活動を増やす。 	<p>【下位層の引き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業規律の徹底。 ②授業で扱う内容の厳選と、毎時間宿題をできる限り出す ③計算コンテストを行う <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ④生徒の発言を引き出す ⑤デジタルドリルの活用
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年では基礎、応用ともに定着が見られる。 ・3学年では基礎の徹底は行っているが、さらに応用力を鍛える必要がある。 ・デジタルドリルの活用と、ワーク・小テストの活用により、基礎基本の向上に効果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学年において、基礎の定着と習熟の程度に応じた指導を継続する。 ・3学年において、さらに理科の力を育むため、応用問題に取り組む時間を増やす。 ・基本的な概念を理解はしていても、記述により説明できない点について、適切な言葉で説明する力を付ける指導の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタルドリルの活用 ②単元ごとに問題演習や小テストを行う ③実験の授業時、考察を文章で適切に表現させることを重点的に行う。 ④図や表を読み取る際に、図と語句のセットで繰り返し説明し、必要な生徒には語句の練習を補習しながら、定着を図る。

<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年は、昨年1年間の学習により基礎・応用ともに前年度よりも向上した。 ・2学年は、基礎の定着はできているものの応用ができていない傾向にある。 ・小テストや単元テストを細やかに行うことで、基礎基本の向上に効果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが主体的に学習を行えるように、調べ学習の機会や発表の機会を増やす。 ・生徒が興味関心をもてるようにデジタル教材やタブレット端末を活用した授業を行う。 ・応用力を養えるように、資料を読み取る機会の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストや復習テスト、単元テストの機会を増やす。 ②タブレットを活用した学習の機会を増やす。 ③調べ学習や発表の機会を増やす。 ④小グループでの活動を増やすことで、発言の機会を増やす。
<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎問題と応用問題の平均得点を比較すると、基礎問題の得点率のほうが高く、単語や文法の知識・技能の定着に課題が見られる。 ・家庭学習については、取り組みにおける個人差が大きく、全体的に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導を行う。 ・学習の習慣化や家庭学習など、各生徒が適した学習に取り組むことができるようにする。 ・英語の知識や技能を、意味・形式・機能3つの側面で定着させ、思考力・判断力・表現力につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習を細かに指示し、定期的に取り組みを確認することでの習慣化 ②スペリングコンテストやレポートの提出 ③デジタルドリルの活用 ④基礎基本の確認となるような帯学習の実施 ⑤定期的にパフォーマンステスト（スピーチ、スキット等）を実施 ⑥ALTとのTTや少人数授業を効果的に活用